ワークショップWS-1
認定試験のポイント
ー傾向と対策ー

鈴木尚人
社会医療法人　社団　カレスサッポロ　時計台記念病院
臨床工学科

Ⅰはじめに

日本高気圧環境潜水・医学会（以下，学会）では高気圧酸素治療（以下HBO）の技術水準の進歩と安全性の向上を図る目的で「臨床高気圧酸素治療技師」の育成を推進すべく現在までに 279名の合格者が輩出されている。

より効果的で安全なHBOを行うために治療にあたる技師には一定水準以上の知識，技術がなければならない。過去の試験問題集等がない現状で，今後認定技師試験を受験される方々に一人でも多く合格されることを願いつつ試験問題の傾向と対策について述べる。

Ⅱ問題作成及び認定基準

試験問題作成には専門医試験委員会の医師と技術部会の中から選出された数名の「認定試験問題委員会」によって行われている。また試験問題の作成を行うにあたり参考としている図書は学会発行の「高気圧酸素治療入門　第5版」，安全協会発行の「絵で見るやさしい安全基準」「安全協会ニュース」高校程度の物理及び臨床工学技士養成過程で用いられた書籍等からの他，当学会「教育委員会」主催の教育集会で講義された内容からである。

認定技師試験の出題基準項目（以下項目）はHBOを行う上で必要最低限の知識という観点ではなく将来的に指導することができるのに必要な知識を得られているかなども作成基準のひとつとしている。

試験問題は午前午後各60問の計120問であり，合格基準は100点満点中72問以上の正答，60％以上の正答率で合格とし50％以下は不合格としているが，試験問題自体の精度や平均正答率によって50～60％間の正答率では別組織である「認定・試験委員会」により合否の判定が行われている。

Ⅲ傾向

試験問題は非公開とされており今回は「認定・試験委員会」より2009年の試験内容，回答及び試験結果のみ公表され，実際の回答結果を元に合格者及び不合格者の正誤回答を拾い上げ項目ごとに分析した。

今回の分析に当たり項目は15分類としたが基礎・臨床における複合問題については他の項目に最も近いと思われる問題に含め，12の項目に分類した。項目による試験問題数は「治療管理」「物理」「生理」とで試験問題のほぼ半数を占めていた。「治療管理」については合格者群・不合格者群共に正答率は最も高く双方とも合格ラインを上回っていたが不合格者群では60％以上はこの「治療管理」のみであった。

不合格者群の正答率は「歴史」「物理」「装置」「酸素毒性」「生理」「減圧症」が50％に満たなく，特に「歴史」「物理」では不合格者群では約30％と低い正答率であった。

Ⅳ対策

「治療管理」について正答率が最も高かった理由は問題の傾向から日常業務に関連する内容が多かったことから，そこで培っていた知識が高得点に繋がったと推察される。

また不合格者群の正答率について50％以下であった項目では特にHBOに特化した内容が多いことからより専門的な学習が必要である。

正答率30％代であった「歴史」ではテキストの熟読，「物理」は圧力単位や圧力に関与する法則を理解することにより，加点できる可能性が高い。

2009年の試験結果のみで対策と傾向を結論付けるには早計であるが認定技師としての資質を得るためにはすべての項目について学習することであることは言うまでもないが，基礎をよく学習した上で臨床に望むことにより結果として合格に結びつくのではないかと思われる。

2009年に出題された試験問題の項目による正答率を分析し報告した。今後は試験問題の難易度を下げることなく合格率をあげるために例えば，受験者対象にアンケートを取り，教育集会受講は有益だったかを含め，教育委員会と共に教育集会での講義内容構成の見直しやテキストの内容も検討すべき点はないか等，受験者ばかりではなく我々試験問題を作成する側にも何かしらの対策が必要であると考えている。